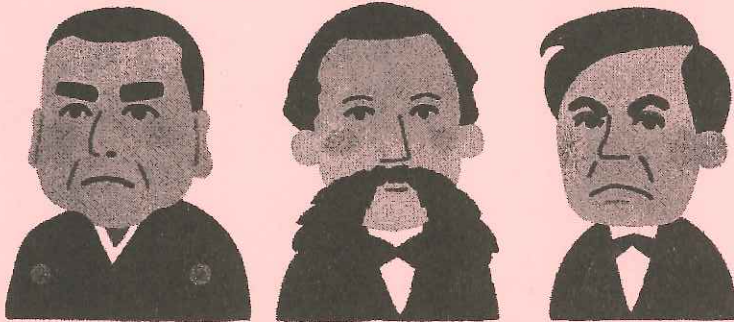


【受講生募集】

平成30年度 はびきの市民大学 単位認定講座

『翔ぶが如く』 解説 ～司馬遼太郎は西郷隆盛をどう解き明かしたか



大河ドラマの主人公・西郷隆盛と、その終生の友であり最大のライバルともなった大久保利通、この両者を最期まで批判し続けて国の行く末を憂えた木戸孝允。彼ら維新の三傑を軸に、司馬遼太郎が描き出す明治日本の創世記を読み解きます。

金曜日・10時30分～12時00分

1	6/8	司馬遼太郎の描いた西郷隆盛（『竜馬がゆく』『花神』など）	作家・文芸ソムリエ 土居豊
2	6/22	司馬遼太郎の描いた「西郷VS大久保利通」（『翔ぶが如く』）	
3	7/6	司馬遼太郎はどうして桂小五郎（木戸孝允）が嫌い？	
4	7/27	司馬遼太郎は征韓論をどう考えたか？	
5	8/24	司馬遼太郎の描いた土族の乱（1）佐賀の乱	
6	8/31	司馬遼太郎の描いた土族の乱（2）神風連の乱	
7	9/14	司馬遼太郎の描いた土族の乱（3）萩の乱～西南戦争	
8	9/28	『翔ぶが如く』で学ぶ明治維新～三権分立と民主主義	
9	10/26	現地講義：司馬遼太郎が描いた幕末・明治の北浜を歩く	
10	11/9	『翔ぶが如く』と江藤淳『南洲残影』に見る西郷像の違い	
11	11/30	『翔ぶが如く』と村松剛『醒めた炎 木戸孝允』に見る木戸像の違い	
12	12/14	『翔ぶが如く』から学ぶ現代日本の課題	

場 所 羽曳野市立生活文化情報センター（LIC はびきの内施設）

定 員 60人

受 講 料 12回講義 6,000円

申込期間 4月13日（金）～5月25日（金） ※先着順。定員に達し次第締め切りとなります。

申込方法 ①来館・②電話・③FAX（数字は申込優先順位です。）

支払方法 来館または現金書留（電話・FAXの場合。申込に来館された場合、お支払いは同時に行っていただきます。）

※事務局が案内する期日以内に、受講料をお支払いください。一旦納付された受講料は返金できません。

対 象 市内・市外を問わず、どなたでもお申し込みできます。

※障がいへの配慮が必要な場合は事前にご相談ください。

はびきの市民大学

〒583-0854 羽曳野市軽里1-1-1 LICはびきの内

TEL 072-950-5503・FAX 072-950-5650

事務室時間 9時00分～17時30分 ※閉室は祝日・振替休日・年末年始



主催/羽曳野市

取得した個人情報は、イベントの管理に関する目的以外には利用いたしません。羽曳野市個人情報保護条例（平成12年羽曳野市条例第43号）に基づいて適切に管理いたします。

『翔ぶが如く』解説～司馬遼太郎は西郷隆盛をどう解き明かしたか

第1講義	司馬遼太郎の描いた西郷隆盛(『竜馬がゆく』『花神』など)
司馬遼太郎の代表作『竜馬がゆく』では、維新を勝ち取るため戦う英雄的な西郷のイメージが描かれました。いざという時、竜馬を助けてくれるのも西郷でした。ところが、のちの『翔ぶが如く』の西郷は別人のような印象です。果たして司馬は、西郷をどう評価していたのでしょうか。	
第2講義	司馬遼太郎の描いた「西郷VS大久保利通」(『翔ぶが如く』)
小説『翔ぶが如く』は、明治維新初期の頃から明治10年の西南戦争にいたる、西郷と大久保の協力と対立を主軸としています。兄弟のようなこの両者の関係性は、海音寺潮五郎『西郷と大久保』などにも描かれました。最後は敵対する西郷と大久保を、司馬はどのように描くのでしょうか。	
第3講義	司馬遼太郎はどうして桂小五郎(木戸孝允)が嫌い?
『竜馬がゆく』や『翔ぶが如く』だけでなく、司馬遼太郎の幕末もののほとんど全てに登場する桂小五郎(木戸孝允)。ところが司馬作品の中の桂は、維新の三傑の中でもっとも精彩を欠いています。司馬が桂を低く評価するのは何故なのかを考えると、司馬の理想とした志士像がみえてきます。	
第4講義	司馬遼太郎は征韓論をどう考えたか?
小説『翔ぶが如く』を読むとき最も困るのは、征韓論についてなかなか理解しがたいという点です。朝鮮との外交問題が、明治政府を分裂させる原因となったのはなぜか?最終的に西南戦争に行き着く、西郷と大久保の対決のきっかけでもあります。司馬遼太郎が明治政府の外交問題をどう解明したか、読んでみましょう。	
第5講義	司馬遼太郎の描いた士族の乱(1)佐賀の乱
明治政府を悩ませた士族の乱は、のちの西南戦争への前奏曲です。司馬遼太郎が小説『歳月』でも描いた江藤新平の活躍ぶりと、その命運を決することになる佐賀の乱。江藤の行く手をさえぎったのは、明治政府の作り手としての大久保の存在でした。大久保の国家建設に真正面から対立した江藤の生き様を読み、ありえたかもしれないもう一つの明治国家の幻について考えてみましょう。	
第6講義	司馬遼太郎の描いた士族の乱(2)神風連の乱
小説『翔ぶが如く』の後半、西南戦争の直前に起こった熊本・神風連の乱。この士族の乱をたどることで、司馬遼太郎が深く考察した武士のあり方を理解することができます。一方で、同じ神風連の乱を三島由紀夫は、最後の長編連作『豊稷の海』第2部『奔馬』で描きました。両者の対比から、司馬の考える武士像がみえてきます。	

第7講義	司馬遼太郎の描いた士族の乱(3)萩の乱～西南戦争
明治10年の西南戦争に先立ち、維新の立役者であった長州藩でも士族の乱が起こります。元々、明治維新のために共闘した薩長両藩で、なぜ士族の乱が起きたのか?そのことが、明治日本の成立過程を理解する上での重要なポイントになります。萩の乱から西南戦争までの時系列を追いながら、明治の歴史を振り返りましょう。	
第8講義	『翔ぶが如く』で学ぶ明治維新～三権分立と民主主義
小説『翔ぶが如く』に描かれた明治初期の日本は、のちの明治国家のイメージとはずいぶん異なる部分があります。明治10年までの日本は、むしろ江戸期と地続きの印象なのです。明治国家、そして現代日本はどのように形成されたのか?司馬が小説に描いた明治政府の成立過程をたどりましょう。	
第9講義	現地講義: 司馬遼太郎が描いた幕末・明治の北浜を歩く
司馬遼太郎が小説に描いた幕末・明治の天満界隈を、歴史散歩します。主な散策箇所は、以下の通りです。 綿業会館(重要文化財・近代化産業遺産)→浪花教会(日本初の自給教会・ヴォーリズ建築)→懐徳堂(江戸期大阪を代表する「町人の学校」)→愛珠幼稚園(現存する最古の木造幼稚園園舎)→適塾(緒方洪庵塾の跡・明治維新期の英才たちを生んだ)→大阪取引所(五代友厚像がある)→花外楼(大阪会議ゆかりの地)	
第10講義	『翔ぶが如く』と江藤淳『南洲残影』に見る西郷像の違い
昭和の文壇で活躍した評論家・江藤淳の歴史エッセイ『南洲残影』に描かれた西郷隆盛のイメージは、司馬遼太郎の描く西郷像とは全く正反対です。したがって、西南戦争のもつ歴史的意味合いも180度違ってきます。果たして本当の西郷とは、どんな人物だったのか?江藤が語った西郷隆盛の生き様を参考に、振り返りましょう。	
第11講義	『翔ぶが如く』と村松剛『醒めた炎 木戸孝允』に見る木戸像の違い
司馬遼太郎が小説中で低い評価をし続けた木戸孝允。ところが、評論家・村松剛による評伝『醒めた炎 木戸孝允』では、維新の三傑の中で最高の人物となっています。桂(木戸)は、本当に司馬の描いたような人物だったのでしょうか?明治国家初期の岐路ともいえる「大阪会議」を舞台に、木戸孝允と大久保利通が鋭く対立したエピソードを通じて、木戸の人物像を考えます。	
第12講義	『翔ぶが如く』から学ぶ現代日本の課題
小説『翔ぶが如く』に描かれた明治初期の日本は、一般的な明治時代のイメージとは相当違うものです。明治国家の成立過程を知ることは、現代日本の課題を考えるための重要なヒントです。司馬が小説に描いた維新の三傑や志士たちの人物像を通じて、司馬の理想とした日本のありようを考えましょう。	